（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）　（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　明治四十三年五月三日（火曜日）　第三百九十四號　（一）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
定價　一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
本紙は月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六二）
發行所　京城新報社

雜錄

内外應酬　一記者

京城督見録（四）

（ロ）日本役人　裁判官は裁判をする、高麗燒の賣買なぞは、アレハ內職である、其の他は、先ず以て、臭い物には蓋をして、乙な塩梅で報告書の材料製造、報告書製造、此の外に何事の在しますかは蓋し詮索の限りにあらざるべし、天長地久國士安全宗の信徒として名譽賦が上に發揚す、結構極り無うして人民は感涙に咽ぶ、尤も一口に感涙と言へども色別けは有りと知るべし、花月揃翠の阿嬢のは黄にして、太平町邊のは泥色に濁り、一般平民のは赤とすべきか、譬へば尾籠ながら船暈せし人の樣、初は食物を吐き次に黄なる汁と吐き、夫れが泥色の汁に變りて遂に血を吐くに至る、斯る始末なり、同舟の心細さは例へんにものなし、唯もう風よ起つな、浪よ荒れなど祈るばかりぞ、

（ハ）日本實業家　眞面目なる分類法に依りて實業家と云へば、其余の人民の始末が甚だ厄介である、で此處に實業家と云ふは實際に而して兎に角白晝に爲し得べき仕事に從事して衣食の資を得る者の總稱である、斯く云へばとて決して文句は無い筈である何となれば東洋拓殖會社が女郎屋に金を貸し付けて大に其の發展を謀くると、口入屋が醜婦の周旋を爲すと其業体に於て差あるを見ず、然るに東拓は韓國に於ける實業家の大關である、依て口入屋も亦實業家の數に入れべきものであると斷定することが出來る、處で其實業家を大中小の三つに別けて其業体を記して見やう

大實業家の主たる仕事は高利貸である勿論他の眞面目な仕事もする、而して其の眞面目な仕事に依て贏得たる信用は多く高利貸の足場となる、即ち看板を掲げての仕事は銀行の金を引出す囮である、銀行より引出したる金は月三歩五歩といふ高利で中以下の實業家若くは韓人に貸付けらるゝのである、之れで市が榮ゆるのである、是等の大實業家は居留民より紳士の、紳商のと稱せられて、送別會、歡迎會に臨んで役人と膝を交へて懽語し、マツタ國遊會にシルクハツトを擔ぎ出すの光榮を有するのである、然かも日本人倶樂部に獅りて玉を轉がすの原澤には浴し得ぬのである、其の代りに待合や何處其處の奥に忍むで、花を弄して罪なきの特待に滿足して居るのである、

雜報

俵次官の訓示（上）

四月廿二日學部に於て官費留學生に合格證書授與の際俵學部次官の與へし訓示要領

諸子は多數志願者中より試驗を經て官費留學生に選抜せらるるの榮を荷へり今よりして行いて日本に留學せんとするに當り一二諸子に告る所あらんとす

一抑々政府が費を給して學生を日本に派遣するは他日成業歸國の上韓國の開發に貢獻する所あらしめんが爲なることは特に茲に絮說するを須ゐず諸子苟くも政府の此期待の下に留學せんとする以上は能く其の責任を自覺し奮勵學に勉むべく諸子亦此覺悟を有するや論なかるべし

然れども男子の志を立てゝ郷關を出づるや意氣昂然万難を排し其の所志を果さゞれば已まずと決心するも奈何せん此初一念の終始渝らざるもの稀にして一年又一年歲と共に漸次此の元氣銷磨し遂に碌々偷安の徒と化するもの尠からず顧ふに青年學生をして初志を挫かしむるは其原因種々あるべしと雖其の重なるものは周圍の誘惑是なり誘惑亦多樣なるも就中溺れ易く制し難きは酒色及有害なる娛樂なりとす而して此の種の誘惑物は人生到る處に存在し時々刻々諸子を襲ひ諸子當初の決心を鈍らし邪路に誘はんとしつゝあり四圍の事情此の如きに拘はらず能く所志を枉げずして研學の目的を確守し種々の誘惑物に打克ちて墮落することなきを得るは志操堅實克己自制の青年にあらざれば到底望むべからざる所なり諸子は多官公私立學校多數の學生中より選拔せられし者にして素より學力衆に超ね志操亦堅實たるを疑はずと雖今後に於ては更に一層の自重奮勵を加へ堅忍不拔以つて其の學業に勵精し情欲邪念の奴隷となるが如きことなく能く四圍の誘惑に打克ちて天晴れ初一念の貫徹成功を期せざるべからざるなり

萬一諸子にして不幸薄志弱行留學生たるの面目を傷け或は成績不良にして到底成業の見込なきものあらば斷然規程により其の官費生たるを免せらるゝに至るべきは勿論なりと雖此の如きは留學生それ自身の不幸不名譽なるのみならず抑又政府の本旨にあらざるなり

諸子能く留學生たるの本分と名譽とを重んじ當初の目的を忘るゝことなく一意專念其の學業に勵精し以て成業の効果を收めんことを銘記すべし

二從來の留學生中往々學生時代の責任と成業後の責任とを混同し學生の本分を顧みずして政治問題社會問題に容喙せんとするの弊風あり思ふに何れの國に於ても國民として政治問題或は時事問題を云爲することは敢て妨げなしと雖修養を主とすべき學生時代にありては一意專心學業の研究に怠らざることは是其の本然の義務にして決して時流を逐ひて政治問題若しくは時事問題等に容喙すべからず予は韓國民は政治を論議すべからずと曰ふにはあらず唯學生時代に於て之を爲すべからずと曰ふに外ならず蓋修學の途は刻苦精勵多大の勤勞と克己とを要するを以て動もすれば倦怠懶惰に陷り易し然るに政治問題は之に反し感興を惹き易きを以て異樂なる學問を疎にし不知不識是が修得を閑却し遂に無學無識の空論家となるに終るべし是れ予が切に學生時代に於ては政治問題に干與すべからずと謂ふ所以なり曾て日本に於ても修學時代の青年が是等政事問題を論議する弊風ありその前途を誤り教育上不利益尠からざるを以て當時文部省は屢訓諭を發し種々の方法を講じて之を討論批判することを禁遏し其の弊習を掃蕩せり爾來學生は眞面目に勉學し遂に今日の如き教育の旺盛を來し國運の發展を遂げたるなり

郵便爲替に就て（二）

（矢野業務課長の談）

假へば男子（或は女子）にして婦女（或は男子）の如き姓名を有するものに宛てたる爲替の如きは其請求書の餘白に受取人女子（或は男子）と記載せらるゝに於ては拂渡上有力なる參考となるべく又常に眼鏡を掛くる人に宛てたる爲替の振出請求書には其餘白に受取人眼鏡を掛けある旨を記載する如き參考とするに足るべし要するに受取人の特徴其他を記載するには一見して直ちに知り得らるべき事項の記載を必要とす

右の外小爲替證書の差出人が其證書の拂渡局及受取人の宿所氏名を指定することも亦詐取豫防の一方法と云ふべし

（乙）學校、兵營、工場等多人數集合の場所に於ても便宜管理者を定めて其の印鑑を郵便局所に提出し置き其在宿者たる學生、兵士、職工等の受領すべき爲替證書の裏面に右の管理者の印章を押捺することゝし若し其の印章なきものは一切拂渡さゞることに郵便局所と協議し置くに於ては爲替證書の盜難紛失の際詐取の豫防として頗る便なるのみならず濫費を取締る上に於ても利益ありといふべし

▲電信爲替の別配達　電信の通せざる地の局所にて拂渡すべき電信爲替は其拂渡局に最も近き電信局所より郵便により爲替到着の通報を得て電信爲替證書を作製し之を受取人に送達するを以て若し右爲替差出人若は取受人に於て拂渡局への通報又は證書の送達に特使を用ゆることを要するときは其旨を請求せらるべし此場合には郵便の別配達と同額の料金の納付を要す（完）



日本銘刀傳

第百二席　津田近江之守　邑井一講演（六）

太「ナニ、此屋敷に畜生が居る、れ手前の飼犬でも逃込んだのかな　彌「ナー二、人間の畜生が居るので……　大「ハヽヽヽヽ何か大野が御貴殿に對して無禮を致した、まア宜い〳〵、何れ又た拙者が大野に遇つて何どか御貴殿へ詫させることにするから今日は拙者に任かして貰ひたい、さア御一所に歸へらう」岡島も大石に斯う言はれちやア何とも仕樣がない　岡「イヤ御家老にさう申されては拙者とて怒るわけには相成らん、オイ、大野の家來共能く承はれ、今日は大石殿の御言葉もあるから此儘立歸るけれど、何れ又た出直して談判に參るから左樣心得ろ」と其日は引取つた、大野の家來達はポッと息を吐いたが、一体何う云ふ恨みがあつて岡島が大野の家へ談判に參つたかと云ふに、是れには種々譯がある、元來岡島は二十石五人扶持と云ふ至つて身分の輕るい者でございます、生來大兵肥滿にて武藝を好み、一刀流は能く使ひます其上不思議にも算術に精しい、是れは別段大して修業した譯ではないが生れ付いての算術家から、師匠から加減乘除を敎つて貰つた位に過ぎないのだが、なか〳〵器用で算術の奧義を見て其妙奧に迄達した、夫故淺野家の會計役を仰付けられてある、妻のれかちと云ふのも貞實の女で夫に能く仕へます、夫婦和合して殿樣の爲め御家の爲めに忠勤を盡くして居る、所が茲に一つ騷動の起つたと云ふのは毎年々々正月十五日に城内大廣間に於て布衣以上の士が集つて殿樣から御酒頂戴がある、此時は無禮講と云ふので、一同打寛いで酒宴を催す、岡島も毎年此席へ列らなります、然るに成年の事例の酒宴の席で、大野九郎兵衛が座中を見渡しまして舌なめづりをしながら　九「コレコレ御一同、拙者近頃一振の名刀を買求めたから御覽に入れやう、言ふ迄でもなく刀は武士の魂だ、平生何事を儉約しても刀だけは好いものを求めなければならんのぢや、なまくら鈍刀を帶して居つてはイザ一騎打と云ふ時に役に立たぬ、さア一同御覽下さいと、自慢氣に鼻動かして一刀スラリと拔放ちますれば、鍔際から鋩まで一點の曇りもなく明晃々たる名刀でございます、玉虫伊兵衛が、ヤア是りやア素晴らしいものだ、好い刀をれ求めになつた、刀身は何でござるな　九「眞守でござる大原眞守でござる　玉「成程、一寸拜見を願ひたい　九「さア〳〵何うぞ……　玉「イヤ是れは美事でござる、伊東七郎と云ふ男がドレ〳〵拜見を……ナール程然し銘はムらんな　九「左樣、銘はござらん　△「めいはござらんがたひはござる　九「是れ〳〵まぜつ返さすは誰だ怪しからん、銘はござらんが確かに眞守でムる、アヽ左樣々々確か此席に岡島も居る筈ぢや、彼はなか〳〵の鑑定家と聽及んで居る、一つ鑑定して貰はふコレ〳〵岡島は居るかな」固より小身の岡島だからズッと末席で御酒を頂戴して居る伊東七郎がやつて來て「岡島氏御家老のれ召しでござる　岡「左樣でムるかとつと立て上座の方へと參つた、實は平生から虫の好かぬ大野九郎兵衛の呼ぶのだから、聽ねても聽ねぬ振をして居たのだ、見ると大野はイヤに反身になつて頻りに岡島を招へて居る　岡「御家老何御用でござる、れ召しになりましたか　九「少々貴殿に鑑定して貰ひたいものがあるのだ、貴殿はなか〳〵の鑑定家と聽及んで居るから……　岡「是れは恐入りました　九「イヤ別に恐入るには及ばん　岡「なか〳〵手前などは鑑定どころか皆無盲目でござる　九「ハヽヽ、旨く言ひ居る、何うか一つ此刀を鑑定して貰ひたい　岡「鑑定などとは思ひも寄りませんが、一寸拜見と致したら存じます」と九郎兵衛の差出す一刀を受取つて見ると、蠟色の刻鞘、茶色の絲を以て卷上げた鞘、鍔は赤銅に金象眼を致した立派な物、目貫きと云ひ、緣頭と云ひ何から何まで寸分の隙もない立派な拵らね、岡島彌惣右衛門は暫らく其拵らへを眺めて居ました

東京電報

▲平田内相の視察　平田内務大臣は來十五六日頃東京出發名古屋市共進會を視察冨業大會に臨み夫より岐阜の全國紙業者大會に臨場北陸地方の視察を爲し傍ら歸還、遞信事務を視察すべし(同上)

▲遞信次官の外遊　仲小路遞信次官は來七月中旬出發西比利亞線經由歐米各國視察の途に上る筈なるが右は電氣事業、郵便及貯金、道路港灣等の調査を爲す爲にて十二月中旬歸朝の豫定なり(一日)

▲白國使節一行叙勳　白耳義國皇帝即位通告使節ゴブイチ男爵一行に對し勳一等旭日大綬章以下夫々叙勳の御沙汰あるべしと承はる(同上)

▲全國典獄會議開催　全國典獄會議は昨日午前十時より開會し司法大臣より諮問の諸事項に就て凝議する處ありたり(同上)

▲田中舘博士渡歐　臨時陸軍輕氣球研究所長田中舘博士は御用有之歐州へ差遣さる(二日)

▲外債と英佛兩國　英國に於ける本邦外債に就て塚田國債整理局長曰く佛國に於ける外債の借換は既に成立したれども倫敦に於ては借換總額一千萬磅の決定を見たる而已にして手數料其他二三の條件に就ては協定の上一兩日中調印に至るべし(同上)

▲文武官の定期陞位　宮中雨溜間に於て中村侍從武官長以下三百十九名に對し位階陞叙の御沙汰ありたり(同上)

▲中村秋香氏の後任　故中村秋香氏の後任として押川僧行氏同寄人仰付らる(同上)

歐洲電報

▲伊國首相の演説　伊國總理大臣ギャッアッツ氏は演説を試みて三國同盟の鞏固なる事より説き起して獨逸宰相ホウルエーヒ氏の來訪説に及び伊墺兩國大臣の關係を說じ伊國は英佛及露國とも親交誠實なる旨を述べたり(二日)

▲佛國の選擧法修正　佛國貴族院選擧法に關し自由黨は若干の修正を加へて之れを可決すべしと提議し宰相ヘイトマン氏は之れを採用せり

雜報

京龍合併反對(上)

京城民團議員　皆川廣濟

左の一篇は京龍兩民團合併調査委員たる皆川氏の反對意見なり記者は反對者たる皆川氏の意見を掲載すると同時に贊成者側の意見投稿をも歓迎するものなり(擔當記者)

龍山民團四十一年度の決算を見るに經常歳入の重もなるものは

	調定額	決算額	減額
民團税	三四、〇四二	二八、三四四	五、六九七
貸地料	九、七四二	二、五六六	七、一七六

にして經常歳出中の借地料五六六三圓を右貸地料に對照すれば借地料の損失は實に三、〇八五圓あるを見る

徴税成績中調定額百圓以上の税目に付きて調定額一〇〇に對する實收歩合を擧ぐれば

戸別税	七六、三
土地税	九一、九
貸家税	九八、〇
營業税	九五、四
料理店飲食店税	八四、八
理髪税	八三、七
職工税	四八、二
湯屋税	九一、四
車税	九〇、一
第一種藝妓税	八九、六
第二種藝妓税	八四、五
市場税	一〇〇、〇
酌婦仲居税	六五、一
演藝税	一〇〇、〇
與行税	一〇〇、〇
汚物掃除税	八〇、九

又四十二年度の徴税成績(四十三年三月三十一日現在)は諸税目を平均して調定額一〇〇に對する實收八三、に過ぎざるを見る試みに之を京城民團の四十一年度經常歳入調定額一七四、四二九圓に對する未納二、五〇〇圓飲損五八七圓此合計三、〇八七圓なる決算に比して彼此財政事情の甚しき差異ある事を大に考慮せざるを得ず

土地税の如きは四十二年度に至るまで年額一坪に付宅地七錢、田畑一錢、山野三厘なりしを四十三年度より始めて改税して宅地に等級を付し最上級を十錢最下級を二錢とし田畑を一等一錢、二等五厘とし山野池沼を三厘と爲したれ共之を京城民團の地税年率一坪に付宅地の最上級三十錢最下級一錢五厘に比して畑地の最上級七厘五毛最下級三厘なるに比すれば甚だ著しき差異あるを見る若し龍山をして京城に併合せしむるときは京城に對する權衡に從ひ龍山の税率を適當なる程度に增率更正せざるを得ずと誰も從來極めて輕微なる課税にして尚ほ且つ不納の多額なる前示の如き情狀なるに拘はらず强て京城と權衡を保たしめんとするは妥當の處置と云ふべからず自今數年の間は歳入に著しき增加を望むの資源と爲らず其他戸別、營業、雜種税等の如き稅轉浮沈の常なき税目に至りては前示の徴税成積に依り之れが情狀を概見すれば亦た以て歳入增加の資源に供し難きこと細說を要せず

情實纏綿の韓鐵

韓國鐵道の改革に就ては昨年度に於て既に其の大部分を遂行し剩すところ二三上級の技術官のみなりしが今般浩任又は罷免の沙汰を蒙りたるは實に意外の方面に表はるることとなりたり今此内情に就き聞くところに依れば大屋長官と岡村技師との間は古き以前より睽ることと能はざる密接の關係を有する由にて夫れが爲め同技師の韓鐵部内に於ける勢力は頗る盛にして羽振りの利くこと夥多しく爲め同技師が臨津江の大工事に於て兎角の非難を受け失敗の蹟は歴々として指點せらるるに拘らず今次の改革に際して平壤出張所の建設課長たる工學士古城技師が追はれて其の后任に岡村技師の坐はりたることは甚だ不思議と云はざるべからず蓋し古城技師は其經歷より云ふも工學士たる肩書を有して相當の手腕家なれば當然其地位に止るべき筈なるに本年度の豫算を遂行する首腦地の開城新幕間、東林良策間及鴨綠江の架橋工事に臨津江の失敗者たる岡村技師が三百十數萬圓を要する此大工事に當り古城技師が京元及三南線の測量に止る二三十萬圓の工事を擔當することとなりたるは如何に岡村技師の跋扈せるかを知るに足るべし而して石川及遠藤技師の如き手腕家は去つて東京詰となり六十歳以上の稻岡氏が止りて工學士たる見習技手の小川氏外一人が休職となり、經理課建設課長たる鵜尾勅任技師の女婿たる加賀田技師内地より轉任し來れる上に先日平壤に轉任したる久門技師は一ケ月も立たざる内に又々歸りて太田方面に追はるる等何れも情實纏綿の改革として心ある者は顰蹙し居らざる者無し向岡村技師の配下には請負人間組の久津米某常に岡村技師の工事を請負ひ居れるは曾て同技師に養成されたる技手なりと云ふ(京通)

韓政府の新借款

韓國政府は本年度の豫算に於て平壤鑛業所の擴張費四十八萬餘圓治道費百六十一萬圓を計上し目下は特別合計資金の内より一時の繰替を以て之れが工事の遂行を爲しつつ居れるも到底永く現狀を維持する能はず蓋し特別合計の資金は土地の調査進行に伴れて必要を喚起し韓銀よりの借入れも一時は之れを爲し得ざるにあらざるも到底長期の借入れを爲すこと能はざる故新たに借款を起すの計畫あり荒井次官上京の用向も此件を含み居れりと云ふ

韓銀と農銀連絡

去る二十日より開會したる農銀の支配人會議は三十日を以て終了したるが其會議事項中最も重要問題は韓銀との連絡にして農銀が商業銀行としての業務に對しては韓銀を中央銀行として動産再擔保、手形の再割引等を爲すこと重なるものなりしと云ふ

●係爭地裁定法内容　土地の調査に伴ふて境界又は所有權に就き係爭事件の多かるべきは今より豫想し得らるることなるが一々之れを普通の裁判所にて裁定するは煩雜に堪へざるの恐れある故土地調査局に於ては目下之れに對する法律を制定中なるが其の内容は調査局裁判所及び係諸官の職員を以て組織し約七八名の合議制にて決定する筈にして愛に終審の裁定を爲すものなるも此機關に於て決定を爲すに至るまでの道途に於ては調査局にて最も愼重の調査を爲すに付き普通裁判所に於て判決を爲すと同じく周密なるものなりと云ふ

●開城蔘政局開廳式　五月一日蔘政局開廳式を擧行されたるが來賓は日韓人約五百名、京城よりは韓國各大臣統監府參與官、小宮次官、鈴木度支部次官代理、宇佐川東拓總裁、木村韓銀理事、松平子爵、野田、秋岡兩代議士其他八十余名臨席會場に付特に人蔘耕作者を參列せしめ午前十一時擧式上林蔘政局長開會の辭を陳べ高度支部大臣鈴木次官代理松平子爵及郡民を代表して朴開城郡守の祝詞あり上林局長再び起つて答辭を陳べ之れにて式を了り立食の饗應、模擬店の設けあり餘興には擊劍、角力、倡夫舞あり日本演劇藝妓手踊等あり三時四十分散會せしが同地に於ける空前の盛儀なりしといふ

●擬何日本に送金する乎　在韓邦人の母國に送金する高を調査するは頗る趣味あることなれば今昨年四月より十二月に至る、通信官署を經たる郵便爲替金高を擧げんに日本より韓國に送金するもの五十一萬三千百圓にして韓國より日本への送金高七百五十四万五千三百圓なり左れば差引勘定七百三万二千二百圓は韓國より日本へ送金したる過超金額と見て可なる譯にて這は四月より十二月迄の計算なれば一ケ年には郵便爲替のみにても優に一千万圓を數ふるなるべし而して之れに銀行の手を經るもの直接現金を持ち歸るものを加ふれば約前記の一倍半ともなるならんか然れども統監府の豫算は約二千萬圓なるを以て差引勘定せば日本は韓國に對し約五百萬圓の損となる譯なり但し在韓邦人の飲み食ひしたる分は別勘定なりと知る可

●民團合併と委員會　流會又流會を重ねたる京龍兩民團合併調査委員會は漸く三十日開催せり出席委員は秋吉氏を除くの外全部出席し皆川氏より詳細研究の結果に基く具体的反對意見ありしも釘本、曾我、城の三氏は何れも贊成側なりしかば格別の議論を生せずして直ちに合併を可決せり而して二日午後七時より議員全部の協議會を開き調査委員會の報告を基礎とし確定せしむる筈なり

●平壤鑛業所の改革　平壤鑛業所にては武田所長着任以來專ら所内の事務改革に全力を注ぎ居たるが今回更に所員の大陶汰を行ひ從來の所員は佐瀬理事を始めとして殆んど其全部(約四十名)の職を免じ新に德山炭所員を以て其補缺を爲す方針にて目下續々當所員を採りつゝありと

●大三角測量の着手　土地調査局の測量部長土屋大佐は既に着任したるを以て土地の調査に對する順序として最初に大三角測量を爲す筈なるが之れに就ては目下準備中なれば不日着手の運びに至るべしと云ふ

●仁川の清潔法日延　仁川に於ては本月一日より同十四日迄春季清潔法を勵行せらるゝ筈なるが八日より十一日までは運動會其他大神宮祭典の爲め中止する由なり

●土地調査局の新築　土地調査局にては今般四十余圓を投し建築所の南隣に廳舍新築の筈にて既に其地堅めに着手したりと云ふ

●政友會大會の開催　政友會は來る八日を以て會員大會を開き總裁以下の役員を選擧すべしと云ふ

●警察署長會議開催　五日より八日迄全北警察署長會議開會

●米領事通譯任命　今回エドウイン・エル・チヴイル氏は京城駐在米國總領事館通譯官に任命せられたる旨此程我外務省より統監府に宛て通牒ありたり

●仁川學校運動會　仁川民團立小學校の春季運動會を來る八日觀測所下の廣地に於て催さるゝ筈なるが例年の如く盛況を呈するならん

●東拓總裁の招宴　東拓總裁宇佐川男は一日午後六時より谷田憲兵司令官及び野田代議士を明月館に招待したり

●外國人叙勳さる　ドクトルウエンジユフは韓帝より勳二等八卦章を賜る

蔘政局雜觀

▲數日前度支部蔘政局長上林敬次郎君から蔘政局開廳式の案內狀が記者の許へ屆いた、元來貧血性の記者春膓長くるの今回に於ても一向氣が引立たない、因つて此機會を利用し紅蔘の香を嗅ぎ、聊か補血の資となさんと揔都行を決した。

▲一日午前九時例の如く南大門停車場へ轉げ込んだ、新義州行に連結した貸切車が待つて居つた、ソレに乗つて驛を出たのが九時十分であつた。見渡せば同行ザツト八十名、和裝したのは記者一人であつた。

▲八十の桃色徽章ヅラツト列んだ處がは歷々の立派なものだ、朴齋以下の大臣君一隅に陣取つて大に春色を賞しつつ在つた、中には曾禰さんに能く似た閔宮相も居つた、中央に席を占めたは宇佐川、松平、野田諸君の東拓連其傍には秋岡代議士も居つた其他は俗に鼻廻りの常連敢て特筆する名前もない、此日何故か稜鈴木君は何時にも無きフロツクコート。

▲誰の眼にも此日の最大兵者は野田大塊君であつた、而して最小兵者は京日の原田主筆であつた、一番品の良いのが何と云つても子爵の殿松平、一番温柔しいのが小宮次官、一番斡旋したのが久塲直介君であつた。

▲愈開城へ着いた、學校生徒の迎ひやら閑な韓男女の見物やら驛も道路も中々混雜であつた、新築の蔘政局に着いたのは十一時少し過であつた

▲齋藤警視の案內で京城からの同行は先づ休憩所へ入つた、茲で人蔘湯、人蔘羊羹、及砂糖漬人蔘の馳走にあづかつた、氣のせいか何だか血が增した樣に感じた、前途何だか多事の樣に感じた。

▲新築廳舍の二階で紅蔘の標本やら說明書やら色々見た、別室で高麗焼の良ナツウなのを澤山見た、小宮次官は室を去るに忍びずと云ふ風で垂涎三尺して居つた。

▲正午天幕の下でプログラムの通り式が始まつた、卓上の瓶に櫻花が挿してあつた、夫より歷々の祝辭答辭があつた、君が代及韓國歌の奏樂があつた、其中最も振つたのは朴開城郡守の祝辭であつた、曰く我紅蔘は球上第一の產物なりと。

▲五十人許りの重なる人蔘耕作者は紫色徽章を着けて式場へ參列した、彼等は人蔘を作るが故に今日日韓大官に咫尺することが出來る、榮譽此上なく思つた樣だ。

▲餘興があつた、立食があつた、模擬店があつた、眼も腹も滿足に及んだ午後三時四十分丁度滿月臺から歸つて來た韓銀の連中と連れ立ち蔘政局を後に驛へと向つた、驛の周りは桃が滿開であつた。

▲茲で亦た貸切車に乗つた、不相變最大は野田大塊、最小は京日原田、同行は朝に比して約二十名減した、上林局長笛一聲列車は動きだした、上林局長はシルクハツトを振つた、開城開闢以來の賑ひに我同行は茲に別れを告げた。

谷田中將の出發

憲兵司令官谷田陸軍中將は三日午前九時南大門發列車にて釜山へ向ふ由なり

●日韓瓦斯營業刷新　若し曾禰統監更迭すれば夫れと同時に從來の營業振りに一大刷新を見るべきは日韓瓦斯電氣株式會社にして曩に岡崎遠光氏が日韓瓦斯事業を慫慂せらるるや曾禰子の女婿たる林養三氏に計り林氏は之を曾禰寛治氏と協議したる結果岡崎、曾禰兩氏は事業を說き統監を通じて澁澤男の賛同を需め而して同社は創立せられたるものにして曾禰寛治氏は現に京城に於ける支配人心得として營業課長を兼務し居るも之れ其當初より曾禰統監が日韓瓦斯の創立及韓美電氣の買收等に多大の後援を與へられたると且つ營業の全權を曾禰派に囑し置きたらんには將來に於て享受すべき同會社の利害關係を鑑みたるものなれば遂上の關係上一度統監の更迭したらんには同會社の發展に至大なる影響を及すものあらんと一部悲觀說を爲す者あり今芳川寛治氏の營業方針を見るに一に統監の意嚮を以て營業上萬機を採決し本社との連絡はあるも一つとして之が命令を用ひず當初豫算せられたる需用者も僅かに其の半數に滿たざる有樣にて到底芳川寛治氏の經營にては發展も覺束なく之れば統監更迭を機とし營業方針に一大刷新を施し東京瓦斯の方針を準據する筈なりと云ふ

●手形交換所の設立　在京城銀行業者は第一銀行百三十銀行十八銀行韓國銀行漢湖農工銀行漢城銀行天一銀行の七行あり日韓商業的關係の密接と共に相互各行間に於ける手形の授受も亦尠からざるが現在に於ては一々行員を派して當該銀行より現金を取立てしめ其不便言ふべからざるのみならず往々危險の伴隨せるあり之が爲めに手形取引所を設立せんとて過日來寄々協議中なりしが孰れも其必要を認め至急開始せんと目下規則書草稿中なり而して八月中には是非設立開始すべき筈なりと云ふ

●取引所問題委員會　京城商業會議所にては二日午后一時より取引所問題に就き第二回委員會を開く由なるが各方面に於ける調査は大に進行したるを以て多分今回にて調査委員會を終るべしと云ふ

●谷田中將の仁川行　谷田中將、榊原少將は一昨日午前九時四十分發列車にて下仁憲兵分隊を檢閲の上岩崎民長其他の招待に係る鮮樓の午餐會に臨み午後二時二十五分發列車にて歸京せり

●宇佐川總裁の東上　東拓會社は來る十四日東京に於て第二回總會を開會するに付き同社の宇佐川總裁は林理事、嶺秘書役長、松田庶務課長外兩三名を隨へ來る七日東上の筈

●野田代議士の歸朝　滯京中の野田代議士及松平貴族院議員は三日午前九時南大門發列車にて歸朝する由尙改野秋岡兩代議士も今三日出發木浦に赴き棉花栽培狀況を視察すと

●岡鐵道院參事赴任　今般鐵道院總裁官房詰に轉任したる參事岡正矣氏は一日朝南大門發にて赴任したるが見送り人は谷參與官以下官吏及び民間有志者等數百名にして盛なりし

●大久保局長の出發　此程より滯京中なりし農商務省商務局長大久保利武氏は同省囑托吉田虎雄氏を隨へ一日平壤に向つて出發したり

●岩佐東拓理事歸任　木浦及び群山、釜山、大邱方面へ金融情況視察の爲め出張中なりし東拓金融部長の岩佐氏は去る三十日夜歸任したり

●大倉喜八郎氏來京　日本實業界の雄鎭大倉喜八郎氏は昨一日入京して南山町天眞樓へ投宿したり

●大屋韓鐵長官歸任　上京中の大屋韓鐵長官は二日馬關に於て岡參事と面會し三日夕歸任の豫定也

●仁川憲兵分隊長　仁川憲兵分隊長江本中尉は來る五日大村に向け出發し其後任として吉村中尉既に着任したり

●加藤獸醫の歸任　馬疫鼻疽流行の狀況視察の爲榮山浦木浦地方へ出張中の加藤軍司令部獸醫部長は三十日歸任

●中村少佐の歸任　留還兵輸送狀況視察の爲め釜山に出張したる軍司令部附中村步兵少佐は去る一日歸任せり

●宮館署長の出張　仁川署長宮館警視は一日管內巡視の爲め出張せり

▲治外法權▼

永の間所聞落聞

政府から反逆者の如く嫉視されて居つた伯大隈へ多年の勳功に因り桐花大綬章御下賜の御沙汰があつた、重信老人も之れで再び天日を仰ぐを得ると云ふもので右の御沙汰は伯當人は勿論一般國民を感泣せしめたのである、生命長ければ耻多しとはよく言ふことだが重信老人は此レコードを見事破つたのである▲多年の間政府嫉視の下に國家奉公の丹心を碎き來つた伯は勿論偉らい併し其伯の爲に元老其他の思惑を不顧多年の勳功を勳功として今回の叙勳を奏請した桂大頭も亦偉らい、誰か桂を呼ぶに官僚派の頭目を以てする、彼は剣々官僚の假面を脫しつつあるのである▲玉璽事件の記事は事宮中に關するの故を以て當地新聞への掲載を禁じてある、而るに當地へ每日來る內地の新聞には事も明細に同事件の記事が掲載してある、いつもながら其筋の新聞記事取締はナゼコンナにホコトンなのか▲內地では先立て各都市に不正升の檢擧があつた、聞けば當地の米穀商中にも盛んに不正升を使用する者がある、との事だ、ドウか其筋の注意が願いたい▲玉璽事件と云へば同事件に日韓瓦斯電氣會社中の某が關係を有して居るとの噂がある、ハテサテ面妖な事を聞くものかな。

名妓洗髪のれ妻(七)

▽最負のれ緣に娃三匹 ▽伊藤公爵の名を詐る

れ緣に身投したなどは、ヤンチヤも通越した事ですが、鄙の無いヤンチヤは始終無し、矢張廿九年の事でしたね、さう〱寫眞屋の小川一眞が燒けた時でした、遠くから見ると、三河屋の幸吉さんの宅が燒けてるやうでした私は其當時は日吉町梅よしの處に市村と暮してゐましたが、近火だといふので熊本の銀行の頭取をしてゐらした堀部さんが、火事見舞に來て下さいまして、格子を明けて首だけ出した妻ちやんがゐるかされ聞きなすつたのですが、私は留守だつたので、堀部さんは桝田屋へ行つてるかられ出でと云ひ置いて歸らうとなさつた時、市村が奥にゐましたまんま、何誰ですといふと市村の顏が見ねぬものですから、堀部さんは笑談に市村だよと有仰つた限りれ歸んなすつたのです、其れを聞いて惡戲をしやらうと考へたものと見ゆるのです▲丁度其時米倉一平さんが市村を可愛がつて下さいまして市村と夫婦にして面倒を見てやらうなどと有仰つてゐた位、夫れで何でも堀部さんも、米倉さんも大阪の磯野小右衛門さんが島鐵に泊つてゐらしたのにれ逢ひになる用事があつて磯野さん米倉さんに私とが兵庫屋に行つてましたが、磯野さんが宅へ與平のれ鮨を屆けて下さつたので、私しは市村に島鐵まで顏出しを爲て置いて與れと云ふてやりますと、市村が堀部さんが磯野さんに遇ふ用事のある事も知つてますので、兵庫屋へ使を遣つて、每度れつまがれ最負に預りまして難有うとか云つて、れ鮨の笹折を屆けたのです、其折堀部さんが居らしやらなかつたので床に置いてあつたところが堀部さんがれ出でになつて見ると、れすしの折がゴソゴソいつてるので、開けると大きな蛙が三匹ヒヨコ〱と歩き出したといふ騷でした▲此れは其れよりも前の話ですが、私が米倉一平さんに落籍されて中洲にゐた時の事ですがね、每晩〱夜が更けて芝居の跡ねる頃になると俺は伊藤勇吉だ〱と云つては小石をパラ〱と格子と云はず雨戸と云はず投げ入れるのですが、此れは勿論市村の惡戲なんです、一寸戒る事で少しの間勇さんとは御親類筋だつたものですから嫉妬いちや此んな馱々兒のやうな眞似をするのです。

惡漢の退韓處分

▽中野太平の乾兒 ▽南部署の大英斷

福岡縣門司市本町二丁目番戸不詳平民無職當時住所不定鍛冶橋事加治松次郎(三五)は去る明治四十年八月頃渡韓し當時京城壽町三丁目博徒中野太平方へ寄食し京城龍山仁川開城平壤等の各地方を徘徊し博徒の首領中野の一の子分と稱し博奕を常業となし飲食店料理屋等を飲荒し常に喧嘩口論を爲し或は脅喝取財等を働き仲居若しくは酌婦等と關係を付け俺れの妻にするとか身受けするとか欺きて金錢を着服する等あらゆる非行を逞ふし現に昨年五月中に南部署に於て右加治に對し一定の職業を求む可き嚴諭せられしにも不係更に改悛の狀なきのみならず益々横暴を逞ふせるより今回南部署に引致し退韓を命じ近々内に退韓す可き諭告を提起せしめたりさは結搆千万

木村猛夫の乘込

▽三日歌舞伎座の開場

既報の如く新派劇の老將木村猛夫は仁川を打揚げ二日當地歌舞伎座に乘込み今三日華々敷く町廻りを爲し直ちに初日開演の筈、一座の顏觸れは木村を筆頭とし寺田、桃井、女形の楠等あり女優には木村の妻野村君子は既に先年來京して其眞價を知られ居るも新來の澤井萍華の技倆に至つては優に君子を凌駕するものあり其他二名の女優と男優二十餘名の大一座にて仕打ちは例の坂本吾一氏なりと云へば道具萬端は思ひ切つて新調さるべく近頃の好芝居を見るを得べく尚は木村優は忌憚なく言へば所謂駄劇俳優にして其藝風に就ては兎角の批評もありしが時世の進歩と共に又優の技藝も大に工風する處あり努めて正劇を物し今回は脚本の如きも最近の新作飜譯物等多數に仕組みありと云へば一層目答へあらん

妓生唱夫の渡米

▽月給は六百圓以上

數日前入城西大門外のアストルホウスに逗留中の米國人某々の二氏は該旅館主人及韓人中松を介し妓生二十名倡夫三十名の渡米希望者を募集中なるが渡米の上は華盛頓其他の都市に於て妓生の演舞を爲さしむべく滯米日數約八箇月とし月給は妓生一箇月各八百圓倡夫各六百圓位なりと而して目下其の筋に向ひ認可申請中なりと云ふ

●一杯食た花二三亭

▽元民團吏員の無錢飲食

若草町住栗林松治は一時は京城居留民團の雇書記として奉職し居りたる者なるが免職の辭令を頂戴し今は浪人となつて各所を流浪し居れる者の由なるが今日此頃の春の陽氣に氣が浮いて浪人でも酒と女なくして可ならんやと大和町二丁目料理屋花二三亭に登樓し飲んだ揚句二圓六十錢の勘定に元來無い錢の出せ樣筈なく俺れは民團の會計書記だ明日小使に持たせてやるから其れ迄待てと立ち去らんとせしも樓主婆さん其の手に乘らず遂に同行することゝなり本町九丁目迄同行せしに栗林は自己の名刺に若草町の三字を記入して自宅は此處だからね後刻持參するからとの事に婆さんフイと此の手に乘り來るか〱と首の八尺も長くなる迄待つても一向音沙汰のないので一昨三十日遂に□洞分遣所に告訴提起せりと

女振り

木尾虎之助氏令妹 木尾ゆら子

木尾氏は人も知る京城辯護士界の花形で日韓人間に最も信用のある一人であるが夫人は未だない所謂チヨン紳の隨一人で「妻は洋行して博士になつてから貰うんだ」と云ふ、夫れで何日洋行するのかと聞くと「夫れはまだ僕にも判らん」と云ふ、夫れぢや博士になるのも何時のことだか判らんのかと云ふと「左樣思はれるよ」と洒落のめす、ゆらさんは芳紀正に二十、淑しやかな美人である、生れは鹿兒島縣薩摩國薩摩郡入來村で鹿兒島市の鶴嶺女學校を卒業して本年四月の初めつ方母ちま女の渡韓に後るゝこと十五日程にして着京せられたのである、飄逸洒脫の交際振りはゆらさんに於て見ることは出來ないが樸實淳朴な、云ひ値で買つて買ひ冠りのない所がゆらさんの身上である、前にも述べた如く兄さんがチヨンガーであるからゆらさんは主婦の如く家事一切を切り回して御座る、要するに母アさんの躾方が善いからであらう。れ頭髮は何時も束髮である。

●弱い者に強い野郎

▽退韓處分者の萌芽

京城太平町居留愛媛縣生れ今尾龍太郎(二九)は去月二十五日龍山遊廓桃山遊廓に到り文句拔きの金錢強請を爲せしに會來合せたる紀の國屋の主人湯川多吉が叱りつけて追出せしが越へて二十七日旭橋通り料理店丸金方にて飲食を爲し京城の龍太郎を知らねへかと脅しつけて一文の支拂も爲さず立去り三十日再び同家に到り今度は金を所持し居るに依り安心して御馳走を並べよと太平樂を極め込み揚句金は所持し居れども他に入用あれば支拂ふ事は出來ずと又しても踏むで了ひ其足にて直に凱旋町曙亭に赴き同じ手にて飲倒さんつもりなりしに生憎にも桃山にて一度嚇かされたる前記の紀の國屋の主人が居合せて睨みつけし爲め一縮みに縮み上がりて其座を逃出し老松町の或鍛冶屋に立寄り職工長谷川元次郎といふを捕へて貴樣は吾所持金五圓を掏摸取りたりと難題を吹懸けて元次郎を裸体にして檢査するなど無法の限りを盡し居る眞最中訴へに依りて巡査出張し龍太郎を捕へて龍山署に引致目下取調中

●洗濯屋の心の洗濯

▽目立つた了見の汚點

南山町二丁目二十番戸阪洗濯屋雇人日佐榮六(四二)は日がな每日他人の垢ばかり洗濯しても知惠のない話しだ偶には自分の生命も洗濯せずんば此の陽氣で汚れ目が眼立つ恐れありと二三人の者を語らひ一日の日曜米倉町に沿ふた南山高地に於て蓙しつ押へつ酒宴最中通り蒐りし南部水標洞朴鐘煥(三五)がイヤ御馳走ですなとか何んか云つたのを不味いものを能く食うナアと云つた樣に僻みビールの空き瓶を朴に投げ附け左大腿部に長さ二寸餘の傷を負はせたるより南大門派出所巡査の爲めに西部署に引致目下留置取調中なりとか生命の洗濯より了見の洗濯が必要

●素人球技大會

京城南山町四丁目巴州亭玉場に於ては來る六日より三日間大競技會を催す由にて賞品は一等金メタル百圓吳服券二等ウヲルサーム十二サイズ金時計以下十等まで其他特別賞寄贈品等も數多ある由會費は一圓五十錢改め一圓なりと

●貴婦人連ご蛤貝

仁川橋本副理事官主催の潮干狩は一昨日月尾島に於て催ふされしが石塚長官以下中山書記官石井少將其他各奏任官夫人令孃令息等約三十餘名下仁せられ獲物の蛤も少なからず滿足して歸京したりと

●荷車小兒を轢く

仁川龍洞具昌顯の長男若三(九つ)と云ふは同町にて一昨日守順基の曳ける荷車の爲め腰部を轢かれ負傷せしかば應急の手當を加ふると共に守を本署に同行取調中なりと子を持つ親は注意肝要

●太嶺師の敎化道場

初音町二丁目臨濟宗臨濟寺圓山太嶺禪師は日日托鉢しつゝ布敎の道場に供する爲め同町内に庵室を新築中の處此程竣工せしを以て去月末移轉し大に敎化を擴張する由

目と耳

▲壽座

連日大入の好評を博しつゝある壽座中村時子一座三日の替り狂言は一番目萱苅桑門筑紫家傳二番目增補朝顏日記にして重なる配役左の如し

女之助、荻勇仙、關助、訥茂丸)監物太郎、岩代(錦太郎)關口隼太、坊主(五郎)加藤重氏(納子松郎)大內義弘橋立、德右衞門(狐狗狸)御臺所坊主(ぼたん)石童丸(芝女六)大名、れ鍋(紀の子)坊主、□頭(政五郎)夕秀、駒澤次郎左衞門(蜻蛉)新洞左衞門、苅萱道心、朝顏(時子)

▲歌舞伎座

今三日より木村猛夫一座の新派劇開場初日の狂言の「樹の間の紅葉」全七幕にして場割及配役如左

「場割」序幕上野公園惡漢密會の場、二幕目淺通の寃罪に夫人自殺、玄關年□嫡の場三幕目人力車立駐車場、重造貧家の場、四幕目別莊門番詰所の場、水門口救助の場、五幕目築地海岸の場、佃甚五郎宅の場、六幕目池田家應接間の場、元の甚五郎宅の場、七幕目池田家奥庭先の場

「配役」佃れきぬ(野村君子)娘れはな(澤井萍華)とめ(小寺田靜子)はし(坂東豊子)以上女優、池田夫人(石井杢三)下女(千葉金二)女中(千代田二三)池中政輝(渡邊來馬)車夫(岡村猛)下女(高田小次郎)女中(村山春夫)江村重造(內田吾郎)車夫(奥山三男)もと(楠太郎)池田年麿(福澤雪秀)魚賣金太(富士井宗彌)女中(小出哲)前原政夫(榎本武夫)遠藤金吾(寺田健一)女中(東五郎)重兵衞(三好五郎)女中(白石春雄)萬吉(廣瀨喜志雄)車夫勝次(桃井文夫)佃甚五郎(木村猛夫)

▲京城座

久しく休場中であつた同座は俳優道具とも悉皆入れ換へ三日より開場の都合なるが藝題は「心の影」全九場なりと

●一日の運動會覗き

…………日韓瓦斯電氣會社……統監府雇員傭人給仕連……日韓印刷藤田合名兩會社…………

小供に強請まれて一日の日曜に運動會覗きと出蒐けた、中の新地裏から練兵場方面一帶の地域は花と人とで塡充かけて居た、が善い按配にはトウ〱塡まらずに終つた、兎に角大層な人出であつた、照らず曇らず少々風はあつたが運動や散歩には誂へ向きの上天氣、南廟の前の井戸の側に二十四五の神經質らしい奥さんが一名狡猾ツルとも云ひシミツタレールとも云ふを經て佇つて御座る、傍には小高にフロツクコートを着た山猫の如な顏をした人と、乳母車の手を斯うウンと押へて帽子は脫つて車の主の……れ父さん似で血色の善い圓々と肥ねた赤兒……胸の邊りに置いて話をして御座るのが旦那樣だらうがれ話が長いので奥さん頻にコーツールを引張たりなつたりして御座るのが甚く眼立つた、花はモウ遲ひ李や杏や櫻桃や桃は半ば散つてモウ桃も四十女が厚化粧で迷惑がる二十男の膝に凭れ掛つてる如な氣體で嫌な氣がして自づと羊躑躅、林檎、梨、菫等に眼が向く、而して此れ等が幾少時の春の野の景色を調へるのであらふ、南山寄りの桃園の入口に大國旗が交叉してある、下に「日韓瓦斯電氣株式會社員觀桃會」とある躰の善い通行止だ(つゞき菜生)

今日の運勢

五月三日(舊三月廿三日)五黃● 先勝 戊辰 建 八十八夜 △一白● 衰運なり新事見合の事 破規の者より損失受け易し △二黑● 模樣替方針替改革整理等吉訴訟中傷の難を防ぐべし △三碧● 危厄の日進退斷引度を失す盗水厄防ぐべし △四綠● 計畫事業始め開店見合せの事旅行轉移轉業を避くべし △五黃● 中宮厄日なり新事見合せの事交際上破に吉 △六白● 快欣の日なり大抵吉慶 △七赤● 衆進の日なり官職業務上の事旅行入學門開店創業婚姻養子の事に吉 △八白● 平穩の日なり △九紫● 援助ある養子注意すべし失錯來生じ易し相談依頼請願に吉婚姻養子の事は忌む(本町五丁目三一館判斷)

美術半襟帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目 電話一千四百〇九
ゑり徳商店

豫約募集

曾禰統監閣下題字 度支部大臣高永喜閣下序文 韓國度支部大臣官房御編纂

現行韓國法典

洋裝脊皮金文字入 頗美本紙數三千餘頁 定價金七圓 韓國内小包料卅錢 日本小包料五十錢

豫約方法

豫約價	金六圓 期限後ハ斷然定價ニ復ス
申込期間	六月三十日限リ
提供部數	壹千部
小包料	韓内地 金三十錢 日本 金五十錢
送金方法	韓國振替口座百十五番 東京振替口座九千五十九番

●内容見本(二錢切手封入御申越次第進呈)

日韓協約以來半島ノ形勢玆ニ一變シ百制維レ新タニ紀綱日ニ張リ最近數年ノ間新法ノ制定舊法ノ改廢頻繁ニシテ吾人ヲシテ其迎接ニ遑アラサラシム然ルニ未タ韓國ニ於テ是等法規ノ完全ナル編纂ヲ企圖セルモノナキハ日韓官民ノ等シク一大恨事トスル所ナリ韓人未タ日文ヲ讀ム能ハスシテ委任行政ニ關スル日本法令ニ對シテハ服從ノ義務アリ日人未タ韓文ヲ解スル能ハスシテ韓國ノ現行法令ヲ知ルニ非スンハ各種日韓ノ事業ニ不利ヲ感スルノミナラス斯國ノ指導啓發ノ天職ヲ遂行スルニ不便ナリ本書ハ即チ斯ル要求ヲ充タサントシテ韓國ノ現行法令諸法律ヲ編纂シ韓國文ニ日本假名ヲ付シ日韓官民ノ實用トモ云フヘキ一大編纂物ナリ若夫内容ノ充實セルト其正確ナルトハ敢テ贅辯ノ要ヲ見ス玆ニ弊房其筋ノ中命ニ基キ殆ント實費ヲ以テ江湖ニ之ヲ頒タントス而モ豫約販賣部數ニ限リアリ請フ日韓各官公署、各團体竝政治家、法律家、敎育家、實業家其他大方ノ諸彦此際機ヲ逸セス速ニ豫約御申込アラコトヲ此ニ謹告ス

◎本書特色ノ要點◎

(一) 現行韓國法令ハ悉ク之ヲ蒐錄シテ剩ス所ナキハ勿論委任行政ニ關スル日本法令中韓國民ノ直接知ラサル可ラサルモノハ一々之ヲ韓文ニ譯シタル上全編韓文ニハ悉ク日本假名ヲ傍書シ以テ日韓兩國人ノ通讀ニ遺憾ナカラシメタリ

(二) 韓國各道ニ於ケル地方官ノ命令ニシテ官報ニ掲載セラレタルモノハ悉ク之ヲ地方別ニ蒐錄セリ故ニ地方當局者ハ勿論苟モ韓國ノ地方制度ヲ知ラントスル人々ニ對シテハ蓋シ恰好ノ指南車タラン

(三) 各法令中其條文ノ冒頭ニ一々改正法令ノ年月日及番號ヲ記註シ以テ該法令ノ沿革ヲ知ルニ便ナラシメタリ

(四) 坊間行ハル、法規ノ編纂書ニハ熟レモ法令ノ成案月日ヲ記載スルトモ之レ何等ノ効ナシ本書ハ即チ其公布月日ヲ掲クルコトトシ以テ法力發生ノ起算點ヲ知ルニ便ナラシメタリ

(五) 書中ノ法令ハ本年四月一日ノ現行ナリト雖モ爾後出版ニ至ル迄テノ發布セラレタルモノハ出來得ル限リ之ヲ追錄トシテ卷尾ニ集收スルヲ以テ實ハ五月若クハ六月現行ノ法規ナリ

發行所 京城本町二丁目四十番 韓國振替口座百十五番 東京振替口座九〇五九
日韓書房

開店一週年御披露

各位の御引立を蒙り開店以來日増に繁昌を加へつゝこゝに滿一週年の春を迎へ候段難有奉謝候就ては此度座敷及庭園等充分の改繕を加へ手入仕候間深山離れに座敷等も有之候へば商業上其他一般の密談又御婦人方御同伴に御靜遊等に最も適當にて勿論貸席業には無之候間何時御座敷御用命之節は一切申受けず候旁今般一週年に於て「洋食」料理の儀は御付客樣方より洋食のみにて大喝采を博しつゝ有り候へば一人前六品ヒール一金六十錢一方御好次第に付此際更に左記の通りなる會席を相加へ一層の大勉强仕るべく候間元より世間一般御料理店の如き歐米流とか「はいから式」とか申す天晴なる調理法は不知はんの素人料理に候へば唯原料の衞生的なると又けいざいに於て無理な御すゝめを致さず御氣に樂に御散財の出來候よう殊に仲居親切にして愛きやうあり何事も御客樣の御命に從ひ愛で快よく立ふるまいなどをさせられ何卒此上とも御引立の程切に奉願上候

和洋御料理 高等 御しるこ 東京天ぷら ビヤホール 御茶漬 金廿錢より
洋食 御一人前六品 ビール付 代金六十錢
和食會席 御一人前六皿 御酒二本付 代金六十錢
右の外洋食は一品二十錢つゝ和食は一皿十五錢より廿五錢までにて御好に關し調理竝に出前仕出しも相致候

南大門通り三丁目東裏光宣門筋向 明治町三丁目西裏支那領事館裏 目じるしは赤点燈
たちばな

業務擴張事務所增設廣告

當事務所今回依頼者の便宜を計ると共に一層業務の擴張及事務の進捗を企圖せんが爲め在來の出張事務所(鐘路通一丁目)の外新に京城本町一丁目七十七番戶(京城理事廳前)に事務所を增設し專ら誠實懇篤を旨とし汎く民刑訴訟登記申請證明查證出願其他万般の書類作成の依囑に應し候間此段謹告候也

本所の特長
一 事務を執る鋭意熱心人に接する懇切叮嚀は本所の特色なり
一 十數年來の經驗と嶄新の學理を實務に應用し勗めて依頼者に滿足を與へ執務上些の遺憾なきを期す
一 事件の大小難易を問はす所主自ら其衝に當り極力事件の成効を期す

明治大學出身
增本好三郎事務所
事務所 京城本町一丁目(電話千五十番)
出張事務所 同鐘路通一丁目(京城控訴院前)

東京火災運送保險株式會社

明治廿年七月創立● 資本金一千萬圓●
京城代辦店 本町四 山口呉服店 電話九番
事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

御披露

大世間俄に春めきて蝶々は咲き匂ふ百花に狂ひ大方の粋樣方には一山超へて新町遊廓は解語の花に戯れ玉ふ年中の好季節になりましたので後盟の別れを惜み歸へらせ玉ふ粋樣方の御便宜を謀り今回美をつくし精を極めたる風呂場を新築毎朝午前六時より浴場を開き一風呂サッと移り香を流させ玉ふ其の間に湯豆腐、酢の物、椀の物御好みに應じ極めて輕便に三府流の粋をぬきたる一品料理を調へ御愛顧に酬ひ奉り升夫れど

○親子丼(上等三十五錢)
鰻丼(上等三十錢)

何時にても御注文に應じ又た出前も致し升が特に宴會は十二分に勉强老雛御好みに應じ數々の内藝妓も侍らせて御與を添へ其他碁、將棋、加留多等も一切取揃へましたれは隔てなき御友達又は御家族打ち連れての御光來を偏に奉願升

大和町三丁目 電話七三五
梅の家

廣告

各位益々御清穆奉賀候陳者弊店江湖御得意樣の御引立を蒙り御蔭を以て日に月に隆盛に赴き候段深く奉鳴謝候何卒今後とも倍舊の御愛顧奉希上候就ては來る四月六日は當店主渡韓十五周年に相當し六月十一日は恰も當京城へ入京の當日に有之候間聊か自祝を兼ね紀念の爲め右期間内左の方法に依り抽籤を以て景品付大賣出しし可致候に付何卒賑々敷御來店の榮を賜り度此段奉希上候

一、景品總金額二千圓
一、景品券は御買上金額二圓毎に一枚を呈す
一、景品券進呈期間は四月六日より六月十一日迄とす
一、抽籤は六月十二日正午廣告しある各新聞記者並に御得意樣三名の御立會を乞い日本人商業會議所樓上に於て施行す
一、景品券引換期間は六月十三日より同三十日正午迄弊店に於て引換可致候以後は無効とす

一等 白米(五斗入)五十俵 三百圓
二等 十八金金側時計 一個 百三十圓
三等 竹内鋼鐵六號金庫 一個 百十圓
四等 純金四匁指環 一個 二十八圓
五等 朱珍丸帯 一本 五十圓
六等より九等迄 總桐東京簞笥 各一個 三十圓
十等、廿等、卅等、四十等、五十等、六十等、七十等、八十等、九十等、百等 竹内鋼鐵八號金庫 各一個 五十五圓
十四金女持金側時計各一個 五十圓
十五等、廿五等、三十五等、四十五等、五十五等、六十五等、七十五等、八十五等、九十五等 上等御召 各一反 十八圓
十一等より十四等まで 仙德瓶掛 各一個 十二圓
十六等より十九等まで 本セル 各一反 八圓
廿一等より廿四等まで 姿見 各一個 六圓
廿六等より廿九等まで 白米(五斗入) 各一俵 六圓
卅一等より卅四等まで 絹張洋傘 各一本 五圓
卅六等より卅九等まで 手提金庫 各一個 四圓
四十一等より四十四等まで 蒸氣アイロン 各一個 三圓五十錢
四十六等より四十九等まで 掛時計 各一個 三圓
以下 空籤なし

五十一等より五十四等まで、五十六等より五十九等まで 手提金庫 各一個 二圓
六十一等より六十四等まで、六十六等より六十九等まで 鐵瓶 各一個 二圓
七十一等より七十四等まで、七十六等より七十九等まで 水差 各一個 一圓八十錢
八十一等より八十四等まで、八十六等より八十九等まで 南部胴子五德 各一個 一圓四十錢
九十一等より九十四等まで、九十六等より九十九等まで 釣錢 各一個 一圓
百一等より二百等まで 桐箱入紀念盃 各一個

和洋金物商 京城本町五丁目
藤本藤次郎本店
長電話四十五番 振替貯金口座京城二五六番

内外科 花柳病(入院隨意)

京城南大門外
戶田病院
電話九三八番

金魚各種 卸小賣

陸軍御用達 龍山山下町一丁目(兵器支廠官舍入口)
馬木勇吉本店 電話三六四番
茶器商 京城本町五丁目一番戶角
馬木勇吉支店 電話四七一番

本店開業拾五ヶ年祝

弊堂開業後滿十五年今日の隆盛は全く各位御愛顧の賜ものに外ならずと確信仕候に就き此際祝意を表すると共に平素の御愛顧に酬ひんが爲め且つ層一層販路擴張の目的にて「タバン懷中時計三千個及び「アンソニヤ」掛置時計三百個を限り四月一日より九月三十日迄本社の命に依り何方樣へも卸直段にて販賣することゝ相成從つて各位の御便利を計り左記特約店を設置致候間最寄りの店にて續々御購求の程願上度此段廣告候也 敬白

瑞西タバン懷中時計會社韓國代理店
米國ウオルサム時計韓國特約販賣店
米國アンソニヤ掛置時計韓國特約販賣店

時計卸商 京城本町二丁目(電話一〇一五番)
喜多金光堂本店
時計卸小賣 京城本町一丁目憲兵分遣所前(電話一三八番)
喜多金光堂支店
右特約店 京城本町四丁目角
金化堂時計舖
右特約店 仁川本町三丁目(電話七〇五番)
中村時計店
各地方より御注文は發送實費申受候

特約販賣 自製
味噌醬油製造元 漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店
支那白菜漬 朝鮮菜葉漬 大賣出し
(電話一二五一番)

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐デシン 穀物食鹽 諸染料類
諸官衙御用品調達

委託販賣
京城 ランバート商會代理店
東京 中外アスファルト株式會社代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
京城 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約
山口縣 臺鹽合資會社食鹽特約

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目 東京電話新橋三六九二十番

ききめのある 温泉湯

此の温泉は左の如き病に最も妙なり
一かつけ、痔疾、リウマチス、腰痛、中風、ひぜん、梅毒、りんよこね、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、せんき、膓胃加答兒、凍傷、がんがさ、其他内用には鐵冷温泉を用すれば尤も効能あり

貸席 京城本町一丁目郵便局前
鐵冷温泉
電話千四百七十番